



広報 たはら

Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

2015
平成27年

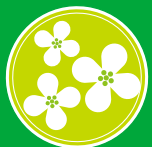
4.15

桜咲いたら 1年生!

目次

「しみんの広場」	2
広報サポーター活動紹介	
愛知ブランド企業認定	
今月の渥美半島の花	
地域の話	
市民活動を応援するページ	
スクールリポート	6
学校生活の一コマを紹介	
たはらシティニュース	7
連載コーナー	8
おしらせ	10
歴史探訪クラブ	12





しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

- 広報サポーター活動紹介……………2ページ
- 愛知ブランド企業・今月の花……………3ページ
- 地域の話(神戸校区)……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ

市民目線で市民に情報発信!

『田原市広報サポーター』の活動を紹介します

広報サポーターは、市民の方に市の広報活動に参加していただくこと、平成20年度から毎年公募し、さまざまな分野でご活躍いただいています。

今回は、平成26年度広報サポーターの活動をご紹介します。



● 広報サポーターfacebook



●CATVナビゲーターの収録の様子



● 広報サポーターが取材した蔵王山展望台

広報サポーターとして、平成26年度は5名の方が活動しました。活動内容は、市民記者やCATV市政情報番組ナビゲーター、ブログ、Twitter、facebookの運営などです。

平成26年度からは、facebookも新たに始め、身近な情報を発信してきました。

新しくリニューアルオープンした蔵王山展望台や赤ちゃんの4カ月検診に実施されるブックスターゲットなどの取材、さまざまなイベント情報を市政情報番組やブログなどで紹介するなど、年間を通して積極的な活動を行いました。

広報サポーターの活動は、市民目線で市民の皆様や市外に向けて田原市の魅力を伝える場として、今後も幅広い情報、面白い話題を皆さんにお届けしていきます。

平成27年度の田原市広報サポーターを募集しています。お気軽にお問い合わせください。

☑ 広報サポーター募集

「広報たはら」の紙面づくりやCATVへの出演、インターネットを使った情報発信など、市の広報活動に参加してみませんか?

応募資格 ● 市内在住の18歳以上の方
※公務員や公職にある方、高校生を除く。

活動内容 ● 次の中から希望するもの
① 市民記者(取材・記事作成)
② インターネット(ブログ、Twitter、facebookなど)を活用した情報発信

③ CATV市政情報番組ナビゲーター
④ イベント・風景などの撮影
募集人員 ● 7名以内

募集期間 ● 5月1日(金)まで(必着)

応募方法 ● 応募用紙に「氏名」「性別」「生年月日」「住所」「連絡先」「職業」「応募動機(抱負)(100文字以内)」「参加したい広報活動」を記入のうえ、直接持参または郵送・FAX・Eメールにて

※応募用紙は広報秘書課で配布のほか、市ホームページからもダウンロードできます。(任意の用紙でも可)

選考方法 ● 意欲などを考慮して、市の選考により決定(面談あり)

発表 ● 応募者に通知のほか、広報にも掲載
活動期間 ● 平成28年3月末まで 謝礼 ● 年1万円

▼ 広報秘書課 〒441-3492(住所不要)

☎ 22局0138 ☎ 22局1901

✉ koho@city.tahara.aichi.jp

🌐 <http://www.city.tahara.aichi.jp/>





愛知ブランド企業認定 海の厄介者で田原を日本一に!

投稿 宮川産業株式会社

◆愛知ブランド企業とは

愛知県では、県内の優れたモノづくり企業を愛知ブランド企業として認定し、情報発信をすることにより、県内外に愛知県の製造業の実力をPRしています。**愛知ブランド企業**とは、製品の良さはもちろんのこと、会社の理念や、技術や製品に対する独自の強み、社会や環境への配慮といったさまざまな面から調査し、評価委員によって認定されます。今回、市内の企業で初めて宮川産業株式会社が**愛知ブランド企業**に認定されました。

◆アオサ粉って青のり?

アオサ粉とは、アナアオサという海に生息する海藻を乾燥させて細かく砕いたものです。カップめんやお好み焼きなどにふりかける青のりとして売られています。

◆アオサ粉で日本一

アオサ粉は、昔は漁師から厄介者とされ廃棄されていた



ました。

これに目を付け、製品として売り出し、今では、三河湾で日本の生産量の9割以上を占め、**日本に3社しかないアオサ粉生産会社**がすべて田原市にあるのです。

◆異物除去がカギ

宮川産業が、愛知ブランド認定を受けた理由は、異物除去技術です。異物除去のため試行錯誤、技術革新を繰り返して、最新鋭の設備や30以上もある異物除去工程を導入しています。

また、異物除去の際に出る泥は、農家の方に肥料として提供しています。

◆田原市のアオサ粉として

アオサ粉の知名度は決して高くありません。地元アオサ漁師の減少に歯止めをかけるためにも、日本一の生産量を誇るここ田原市からアオサ製品を田原ブランドとして発信し、農業だけでなく漁業の知名度を上げていきたいと思えます。

宮川産業株式会社
32局0032



今月の花

キレイなコトいいね 10

農政課 ☎23局3517

◎母の日にはカーネーションを



母の日にカーネーションを贈ることは全国的に定着している習慣となっていますが、近年では母の日の贈り物も多様化してきており、花を贈る方も少なくなってきています。田原市では母の日に向けて4月にカーネーションの出荷のピークを迎えます。赤に限らず、さまざまな色があるのもカーネーションの魅力です。贈られる方のイメージにあった花色を選んでみるのもよいかもしれませんね。5月3日(日・祝)にサンテパークたはらで開催される農業祭で「母の日アレンジ」の花育教室が行われます。カーネーションを使ったフラワーアレンジを体験することができますので、ぜひご参加ください。



4月の 渥美半島の花と鉢花



カーネーション

(花 / 出荷時期: 10月~6月)

花ことば

母への愛、生きた愛情

色が豊富な花で、県内1位の生産量、約600万本出荷されています。



エレモフィラ・ニベア

(鉢花 / 出荷時期: 3月~5月)

花ことば

瞳の佳人

白い葉っぱと紫の花がかわいらしい花で、約5万鉢出荷されています。



▲竹を割り、節を取る作業の様子



▲手作りの炭焼き窯に竹をすき間なく並べます

地域の話題

神戸校区

「じやまもの」の竹を価値ある竹炭へ

竹の繁茂により荒廃が進む里山。その竹を伐採し、竹炭にする活動をしている神戸コミュニティ協議会からお便りが届きました。



荒廃が進む里山

竹が繁茂し、荒廃が進む里山。その里山をなんとかしたいという思いから、竹炭づくりの活動は始まりました。

「神戸校区まちづくり推進計画」で、「里山保全を兼ねて竹を伐採し、竹炭を作製する」を主要施策の1つとして掲げ、平成19年度から、校区が主体となって取り組んできました。

手づくりの炭焼き窯が完成

竹はあっても、炭焼きのための窯がなければ、竹炭はできません。活動の始まりは、炭焼き窯をつくることから。場所を神戸大池のほとりに決め、専門家の指導を受けなが

ら、当時の役員と有志で協力し合っ
て、手づくりの炭焼き窯が完成しま
した。

竹炭ができるまで

竹炭をつくらうとしても、竹がす
べて燃えて灰になってしまったり、
炭になっていなかったりと、最初は
失敗の連続でしたが、試行錯誤を重
ねる中でコツをつかみ、なんとか竹
炭ができるようになりました。

1回の炭焼きに必要な竹は、約8
mの長さで約160本。それを70cm
の長さに切り、5分の1ぐらいに割
り、節を取って、すき間なく窯に入
れます。火を入れたら、2昼夜、交
代で火を見守りながら、窯の温度を
調整し続けます。火を消した後、3
週間程度待つと、竹炭が完成します。



竹林には、竹炭に向かない細い竹
などもあります。その竹もなんとか
しないと、竹林は荒れたままです。
そこで、購入したのが粉砕機。竹炭
にできない竹は、機械でチップ状に
して、それを竹林に敷き、自然に帰
すことで、里山の再生に取り組ん
でいます。

価値のあるものへ

竹炭と、竹炭の副産物である竹酢
液は、花壇や家庭菜園で、土壌改良
や消毒などにも利用できると好評。
「じやまもの」の竹は竹炭や竹酢液
となり、校区の方にとって価値のあ
るものとなっています。

参加者募集

竹の伐採作業などには、人手が必要
です。里山再生だけでなく、参加者同
士の交流も目的としています。竹炭づ
くりに興味のある方は、神戸市民館に
ご連絡ください。



市民活動を応援するページ



市民活動紹介

NPO法人たはら国際交流協会

外国人のための「にほんご教室」

たはら 国際交流協会では、年間を通じて外国人のための「にほんご教室」を開催しています。

現在、田原市には約1300人の外国出身の方々が暮らしています。その方々が気軽に日本語を勉強できる場を提供するために、毎週金曜日の午後と日曜日の午前に、いつからでも参加できる教室を田原文化会館内で行っています。内容は、日常会話から日本語能力検定試験受験のための勉強など、受講者それぞれのレベルに合わせて学んでいます。

教えるのは日本人のボランティアスタッフで、専門的な知識を持った人から学生、普通の主婦までさまざまです。また、協会のイベントや花見などの季節の行事、お祭りにはみんなで参加します。

6月から渥美地区での開催も予定しています。興味のある方は、ぜひボランティアスタッフとしてご参加ください。



▲にほんご教室の様子



▲お花見イベント

お問い合わせ

特定非営利活動法人たはら国際交流協会 (田原文化会館1階)
☎ 22 局 2622 ☒ info@tahara-tia.jp

支援制度活用

平成26年度市民協働関連補助金事業報告会



▲報告会の様子

◎補助金採択団体一覧

団体名	事業名	補助金
アースデイたはら	アースデイたはら2014	市民協働まちづくり事業補助金
女性会議ウィットWIT	地域がかかえる問題点を考える事業	
渥美半島の里海を美しくする会	里海ビーチクリーン	
NPO木遊びまごまごネット	子どもの健全育成を図る事業	
清田・福江校区クリーンアップ隊	渥美半島おもてなし道路清掃活動事業	市民活動向上事業補助金
あつみ NPO ネットワーク	出会って 深めて 広がって…ネットワーク事業	
田原リレーマラソン実行委員会	第1回田原リレーマラソン大会	市民活動チャレンジ支援補助金
渥美青年経済研究会	西のハトバデーナイト in 伊良湖	

平成26年度市民協働関連補助事業の採択を受けた8団体の事業成果の報告会が3月13日(金)に田原文化会館で開催されました。

「市民協働まちづくり事業補助金」に採択された5団体、「市民活動向上事業補助金」に採択された1団体、「市民活動チャレンジ支援補助金」に採択された2団体が、どのような事業を行い、より良いまちづくりにつなげたかなどの成果を、パワーポイントなどを使って報告しました。

団体関係者のほか、市民協働まちづくり会議委員、市役所関係課職員など約50名が参加し、団体の報告に熱心に耳を傾けていました。

田原市民活動支援センター

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/>

☎ 22 局 1111 (内線 812) ※開設時間のみ

FAX 23 局 0180 ☒ shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp

メールマガジン配信中です!

センターから市民活動に関する新鮮な情報を随時、お届けします。配信ご希望の方は、メール本文に「メール配信希望」とご記入の上、左記センターアドレスへメール送信ください。





スクールレポート

SCHOOL REPORT 79

学校生活の
一コマを紹介

今回は、小学校での「ノリの学習」と「書に親しむ会」の様子をご紹介します。

●学校教育課 ☎ 23局 3679

福江小学校 「ノリの学習」



福江の海で採れるノリは、福江の宝

福江小学校では、長い間、地域在住の高橋信夫さんの指導のもと、黒ノリ作りに取り組んできました。

10月、黒ノリ作りは竹打ちから始まります。海の底に機械で穴をあけ、その穴に網を張るための竹を打ち込みます。11月、種が小さなノリとして育ち始めた網をみんなで張り、冷たい海での黒ノリの成長を祈りました。1月には、北風が冷たく吹く中、収穫が始まります。子どもたちは「手がしびれる」と言いながらも、ざるが山盛りになるほどのノリを収穫しました。翌日は、親子でノリすき体験をしました。ノリのみそ汁を会食し、自分たちの手で育てた海の幸を親子で味わいながら、海の恵みに感謝する会になりました。

感想には、「ノリを1枚作るのも大変なのに、これを何百枚も作ることは大変だと思いました。でも、福江の海で採れるノリは、福江の宝であり、いつまでもきれいな海を守っていきたいと思いました」といったものがありました。子どもたちが、ふるさと「福江の海」の素晴らしさを実感した学習になりました。



▲ノリの収穫の様子(写真上)とノリすき体験の様子。高橋さんが優しく指導してくれました



泉小学校 「書に親しむ会」

卒業記念、自分の思いを一文字書に



泉小学校の6年生は2月に卒業記念として一文字書を行います。穂長14cmの太筆で50cm四方の色紙に漢字一文字を大書します。今年も、東三河を代表する書家の佐藤貴久江さんをはじめ、4名の先生にご指導いただきました。

海のように広くて大きな心をもちたいから「海」、正直な気持ちをもって中学校へ進学するために「心」など、子どもたちは自分ならではの一字を決めて書きました。他に「友」「志」「希」「努」「信」などの字があり、それぞれから自分の思いが伝わってきました。筆や色紙が大きいのでどの子も初めは緊張気味でした。

しかし、筆をゆっくり運んで書いているうちに、気持ちを込めたり楽しんだりする余裕も感じられるようになってきました。

書き上げた後は、消しゴムで作った自作の落款らっかんを色紙に押ししました。白い部分のどこに印を押せばよいのか、自分の書と向き合ってじっと考えている児童の姿が見られました。

卒業式には体育館の壁に、一人一人の書が飾られました。



▲強く筆を入れる児童(写真上)
それぞれが書いた一文字とともに記念撮影(写真下)



▲法被姿で防火を呼びかける赤羽根保育園の園児たち



▲布製のディスクの行方に集中します



▲新入生へ式辞を述べる山田貴三校長

3月11日(水)

みんなの安全
火の用心!

春季火災予防運動の一環として、漆田第一・東部・赤羽根保育園で防火パレードが行われ、計340名の園児が参加しました。音楽に合わせて拍子木を打ち鳴らしながら、元気いっぱい「火の用心」を呼びかける園児たちに、道行く人は目を細めていました。

3月22日(日)

チームワークが
勝利へのカギ

田原市ディスクドッジ大会が渥美運動公園屋内競技場で開催されました。年齢や性別に関係なく競い合えるこのスポーツは人気があり、市内から15チーム約200名が参加しました。参加者は、仲間と声を掛け合いながら駆け回り、さわやかな汗を流しました。

4月2日(木)

「たつぷく」生の
学生生活が始まる

田原福祉専門学校入学式が行われ、27名が入学しました。地域行事へ参加したり、手作りの学園祭へ地域の方を招いたりするなど、市民の皆さんと接する機会が多い同校の学生たち。田原市の静かな環境の中で、介護福祉士の国家資格取得を目指します。

広がる未来へ

たはらエコ・ガーデンシティ構想

106

今年も暑い夏がやってくる？
緑のカーテンにチャレンジ！



田原市では、夏季の省エネ対策として緑のカーテンの設置を推進しています。

今回は、ゴーヤを使った緑のカーテンの作り方を紹介します。

●土をつくる (4月)

プランターの底に鉢底石を敷いて、その上から園芸土や腐葉土を混ぜて作った土を入れます。

●種をまく (4月～5月)

ビニールポットに種を2、3粒まきます。ゴーヤの種は、芽が出やすいように先端をカットして、一晩水につけたものを植えます。

●苗を植える (5月～6月)

芽が出て、葉の数が4、5枚になったら、プランターに植え替えます。

苗と苗の間は、30cm程度空けます。

●ネットを張る (6月～)

ネットは、ベランダや手すりなどしつかり張って結びます。固定する場所がないときは、支柱を立てます。

この取り組みを応援するため、緑のカーテンを設置する市民の方々にゴーヤの種を無料で配布します。

◆配布期間

4月15日～5月29日 (平日の業務時間内)

◆配布対象

市内に在住・在勤で「たはらエコチャレンジ宣言」に登録された方

◆配布方法

市役所環境政策課窓口までお越しください。

●窓口にて「たはらエコチャレンジ宣言」の登録も可能です。

●なくなり次第終了とさせていただきます (先着100名)。

●たはらエコチャレンジ宣言登録者数
個人179人・事業所44カ所 (3月末現在)

▼環境政策課

☎23局7401 FAX23局0180

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/>

環境戦隊たはらエコレンジャー 環境けいじばん 31



ゴミミンとリサイクルレンジャー

注意しましょう。

また、捨てる前にしっかりと水切りをしましょう。

●ごはん一膳 (大人) 約150g

●キャベツの葉1枚 約50g

●にんじん (中) 1本 約100g



田原市ごみ処理基本計画では平成38年度までに、家庭から出るごみ量を1人1日あたり360gにすることを目標としています。目標達成には平成25年度のごみ量から1人1日あたり166g減量する必要があります。具体的に何をどのくらい減らしたらいいのでしょうか？今回は、身近なものの重さについてお伝えします。



●もやせるごみの中には、分ければ資源となる紙やプラスチック容器などが多く入っています。

●A4のコピー用紙1枚 約4g

●新聞紙1日分 約200g

●シャンプーのボトル1本 約70g

●卵のパック1個 約16g

●1ℓの牛乳パック 1個 約30g



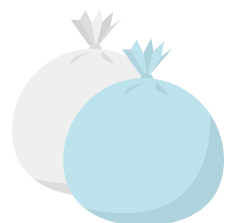
●食べ残しや調理くずなどの生ごみも多く割合を占めています。食事の作り過ぎや食材の買い過ぎに

●マイバッグやマイ箸などの繰り返し使用できるものを使用することで、余分なごみが出なくなります。

●レジ袋 (10ℓ) 1袋 約10g

●割り箸1膳 約5g

もやせるごみを1人1日あたり1g減らすだけでも、田原市全体で実施すると年間約23tと大きな減量につながります。小さなものからでも、買い方・捨て方を考えてみませんか。



▼廃棄物対策課

☎23局3538 FAX23局0180

●企業と連携した美しい景観づくり

「田原菜の花プロジェクト」

渥美半島を車で走っていると、鮮やかな黄色の菜の花畑がある風景に出会うことがあります。今回は、この菜の花をキーワードに、企業と連携した美しい道路景観づくりについてご紹介します。

アイシン・エイ・ダブリュ（株）は、道を舞台とした地域ならではの魅力づくりや、自然、歴史、文化などの資源を活かした美しい景観づくりに取り組む日本風景街道「渥美半島菜の花浪漫街道」の活動に協力しています。平成22年度から「田原菜の花プロジェクト」を開始し、NPO法人田原菜の花エコネットワークや愛知



▲菜の花の種まき

海運産業（株）、田原市と協力しながら、光崎交差点の道路の緑地帯を活用した美しい景観づくりに取り組んでいます。

平成26年度は、清掃活動も兼ね、5月にヒマワリの種まき、8月に菜の花の種まき、1月に菜の花の収穫を行いました。始めたころは石ころが多く、雑草が生い茂る荒地でしたが、社員や家族の皆さんの丹精込めた作業で見事な菜の花畑に生まれ変わりました。11月に開催された中部・北陸実業団対抗駅伝競走大会では、沿道を華やかに彩りました。



▲満開のヒマワリ



▲菜の花の収穫



●津波浸水想定区域の拡大
これまでのマップに比べて区域が拡大しました。浸水被害が心配されますので、速やかに避難できるように備えておきましょう。

◆主な変更点

●津波浸水想定区域の拡大
これまでのマップに比べて区域が拡大しました。浸水被害が心配されますので、速やかに避難できるように備えておきましょう。



こ
んにちは、しろちゃんです。
田原市では、昨年11月に愛知県が発表した津波浸水想定を基に、「田原市防災マップ」を新しく作成し、前号の広報たはらと一緒に配布しました。今回は、その主な変更点についてご紹介いたします。あらためてお住まいの地区を確認しておきましょう。

●津波浸水想定区域の拡大
これまでのマップに比べて区域が拡大しました。浸水被害が心配される地区で作成している「地震・津波避難マップ」についても順次更新し、該当地区に配布する予定です。
▼防災対策課 ☎23局3548

●津波避難対象区域の拡大
津波浸水想定区域の拡大に伴い、避難対象区域も拡大しました。
●風水害避難所の掲載
台風などの際に避難所となる市内20カ所の風水害避難所の場所と連絡先を掲載しました。
●土砂災害警戒区域などの拡大
これまでのマップに比べて区域が拡大しました。近年、集中豪雨などによる土砂災害が増加しています。危険な区域を確認しておきましょう。

●津波避難対象区域の拡大
津波浸水想定区域の拡大に伴い、避難対象区域も拡大しました。
●風水害避難所の掲載
台風などの際に避難所となる市内20カ所の風水害避難所の場所と連絡先を掲載しました。
●土砂災害警戒区域などの拡大
これまでのマップに比べて区域が拡大しました。近年、集中豪雨などによる土砂災害が増加しています。危険な区域を確認しておきましょう。

みんなで取り組む防災・減災

しろちゃん

13

(新)田原市防災マップを配布しました

おしらせ				
		INFORMATION		

募集

人権擁護委員

新しい人権擁護委員に、鈴木敏代さん（加治町）が法務大臣から再委嘱されました。任期は平成27年4月1日から平成30年3月31日までの3年間です。

▼地域福祉課

☎23局3512 FAX23局3545



募集

流域モニタリング 一斉調査参加者

▼対象Ⅱ市内の2名以上で構成するグループ（中学生以下の子どもを含む場合は保護者同伴） ▼調査期間Ⅱ6月5日（環境の日）から9月下旬 ▼内容Ⅱ身近な水辺（河川・湖沼・海・水路・ため池など）で水質、水量、生態系などを調べて調査結果を報告 ▼参加料Ⅱ無料 ▼主催Ⅱ尾張・西三河・東三河地域水循環再生地域協議会 ▼申し込みⅡ5月15日（金）までに環境政策課の窓口にある参加申込書に必要事項を記入のうえ提出

▼環境政策課
☎23局3541 FAX23局0180

長野県宮田村 りんごの木オーナー

田原市と友好提携を結んでいる宮田村のJA上伊那宮田支所が「りんごの木オーナー」を募集します。オーナーになって甘い蜜の入った「サンふじ」を収穫してみませんか。

〔サンふじA〕 価格Ⅱ2万5800円

（税込み）／数量Ⅱ180個保証

〔サンふじB〕 価格Ⅱ3万9600円

（税込み）／数量Ⅱ300個保証

〔サンふじC〕 価格Ⅱ1万5500円

（税込み）／数量Ⅱ100個保証

▼申し込みⅡJA上伊那宮田支所に直接電話にて（申し込みが予定本数に達しだい、募集を締め切ります。）

▼JA上伊那宮田支所営農経済課
☎（0265）84局1201

点訳・音訳ボランティア養成 講座 受講生

点字図書館「明生会館」で点訳・音訳ボランティアとして活動できる方を募集します。

◆点訳ボランティア講座

▼日時Ⅱ5月19日（火）～平成28年3月1日（火）の毎週火曜／午前10時～正午／全30回 ▼内容Ⅱ表記法、

点訳技術、点訳実技など

◆音訳ボランティア講座

▼日時Ⅱ5月29日（金）～平成28年3月18日（金）の毎週金曜／午前10時～正午／全22回 ▼内容Ⅱ正しい発

音、音訳技術、音訳実技など

●共通事項

▼対象Ⅱ明生会館で点字・音訳図書製作に取り組む意思のあるおおむね

60歳未満の方 ▼場所Ⅱ点字図書館明生会館 ▼定員Ⅱ20名（先着順） ▼受講料Ⅱ無料（テキスト代などは実費） ▼申し込みⅡ5月8日（金）までに電話

▼点字図書館明生会館

☎（0532）52局2614

2015トライアスロン 伊良湖大会 参加選手

▼日時Ⅱ9月6日（日） ▼競技距離Ⅱ〔Aタイプ〕91・25km（スイム2・25km・バイク70km ラン19km）〔Bタイプ〕53・5km（スイム1.5km・バイク42km・ラン10km） ▼募集人数Ⅱ各タイプ500人※申込者多数の場合は抽選で決定します。（田原市民の方は優先されます）

▼参加費Ⅱ〔Aタイプ〕2万6000円

〔Bタイプ〕2万3000円 ▼申込期間Ⅱ4月13日（月）～5月10日（日） ※詳しくは、ホームページをご覧ください。

▼トライアスロン伊良湖大会運営事務局（NPO法人With）

☎36局6882

☎http://www.irago-triathlon.jp/

トライアスロン伊良湖大会実行委員会事務局（田原市教育委員会スポーツ課）

☎23局3531

まちの環境美化対策 アダプトプログラム(里親制度)

アダプトプログラム(里親制度)は、市民と市が協力し合い、市が管理する道路、公園、河川などの公共施設を市民がボランティアとなって管理する制度です。道路や公園、河川などを養子とみなし、親が子どもを大切にするように、清掃・美化などの活動をしていただきます。

※詳しくは、お問い合わせください。



●活動場所

市が管理する道路・公園・河川などの公共施設

●活動内容

ごみの収集、除草、樹木の管理、活動計画書・報告書の提出

●支援内容

環境美化に必要な物品(ごみ袋、軍手)の支給や貸し出し

希望者にはボランティアの名称を表示するサイン看板の設置

活動時に事故が発生した場合の補償

●対象者

市内に在住・在勤・在学する個人・事業者・団体

●申し込み

所定の申し込み用紙に必要事項を記入のうえ、維持管理課へ直接(申し込み用紙は維持管理課で配布するほか市ホームページからもダウンロード可)

●その他

申し込み後に、市と協議して「合意書」を交わします。

▼維持管理課

☎ 23局 4103 FAX 23局 0180
 ✉ ijikanri@city.tahara.aichi.jp
 🌐 http://www.city.tahara.aichi.jp/

生活



春の全国交通安全運動 5月11日(月)～20日(水)

新緑が鮮やかなこの時期は、子どもたちが活発に動き始め、また、高齢者も朝夕の散歩や外出の機会が増えたりすることから、子どもや高齢者が犠牲となる交通事故が心配されます。

高齢者や子どもに対する思いやり運転の励行、交通ルールの遵守や交通モラルの向上に努め、交通事故をなくしましょう。

●運動の基本

子どもと高齢者を交通事故から守ろう

●取り組み重点

- 自転車の安全利用を進めよう
- 全ての座席でシートベルトとチャイルドシートを正しく着用しよう
- 飲酒運転を根絶しよう

▼市民協働課

☎ 23局 3504 FAX 23局 0180

春の安全なまちづくり県民運動 5月11日(月)～20日(水)

平成26年中の田原市の犯罪発生状況は、住宅対象侵入盗は減少しましたが、自動車盗などが増加しました。犯罪にあわないためには、自らの行動に気をつけることが重要です。この機会に、ご自宅など身の回りの防犯対策がしっかりとできていますか確認し、万全の態勢を日常化できるように習慣付けていくことが大切です。

また、新入学児童・園児は、身を守る力が弱いいため、保護者をはじめ周りの大人の目で見守っていく必要があります。地域ぐるみの防犯活動で、安心して暮らせるまちづくりをめざしましょう。

●運動重点

- 家の鍵掛け、窓に防犯フィルムを貼るなどの対策を取りましょう
- 自動車などの鍵掛け、保管に注意しましょう
- 振り込め詐欺に注意しましょう
- 子どもと女性を犯罪から守ろう



▼市民協働課

☎ 23局 3504 FAX 23局 0180

松くい虫から松を守る 薬剤散布にご協力を

松くい虫による被害を防ぎ、森林の保護育成を図ることを目的に、次のとおり薬剤の空中散布を実施します。ご理解とご協力をお願いします。

なお、事業実施においては細心の注意を払いますが、万が一、この薬剤散布により体調を崩された場合は、農政課までご連絡ください。

▼実施日時 5月26日(火) 午前5時～10時ごろ ※雨天、強風などの場合は延期
 ▼散布区域 西ノ浜一帯の森林(区域には境界標識を設置します)

▼農政課

☎ 23局 3517 FAX 22局 3817

渥美郡三町の時代



郷土史編さん室 ☎36局6503

水田灌溉から畑地灌溉へ 転換された豊川用水計画

宇連ダム着工以来19年の歳月と488億円を投じた豊川用水が昭和43年に完成しました。

豊川用水事業とともに、渥美半島全域で農業基盤整備を中心とする農業の近代化が図られ、渥美郡は日本有数の施設園芸・畑作農業地帯へと発展してきました。

大正10年、鳳来寺山にため池を造り、渥美半島まで豊川の水を引くことを提唱し、実現に向けて尽力したのが、赤羽根村高松出身の先覚者・



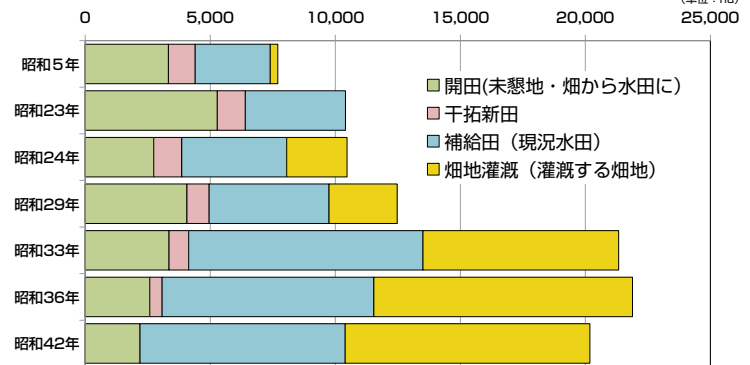
●愛知県渥美八名二郡大規模開墾計画地区平面図

(『豊川用水史 資料編』付図に水路を着色)

近藤寿市郎氏でした。

右の地図は、昭和5年に農林省が作成したものです。東高西低、南高北低という渥美半島特有の台地地形を生かして、先端部まで自然流下で水を送る構想は、この時、既にできあがっていました。幹線水路は、太平洋岸を高松まで通し、その先は、半島の中央部の山すその北側を通しています。一方、万場ため池から田原湾干拓地と、石神から福江湾干拓

●事業計画に見る計画受益地面積の推移



(『豊川用水技術誌』から作成)

地へ延びる水路も描かれています。用水の灌溉期間も6月21日から9月30日まで設定されているなど、米の増産計画が中心でした。

計画は戦時体制により立ち消えになりましたが、終戦後に『豊川農業水利事業計画』として復活しました。宇連ダムの水を渥美半島だけでなく東三河一帯にも、大野頭首工から東西の幹線水路で通水する計画に変更され、昭和24年から宇連ダム建設

が着手されました。

上のグラフは、豊川用水計画に見る受益地面積の推移です。昭和24年に畑地灌溉が加えられ、佐久間ダムからの分水協定の妥結、大野頭首工のかさ上げなど施設の強化により、昭和33年には受益地を拡大し、畑地灌溉の比重が高まっています。そして、昭和42年には田原湾干拓が除外されました。

豊川用水計画は、戦前の干拓新田開発と水田灌溉を目的としたものから、ファームポンドとスプリンクラーによる畑地への周年灌溉という方針転換により、渥美郡の農業は発展の機会を得たのです。

(執筆委員・藤城信幸)

今月の「表紙」

▼ピカピカのランドセルを背負った新一年生は、期待と不安に胸をふくらませ桜の木の下を駆けまわりました。満開の桜が子どもたちを祝福しているようでした。だれでも最初は一年生。大人になってからも人から教えてもらったことを大切にしていきたいです。(〇)

【表紙の写真】清谷川の桜並木と新一年生